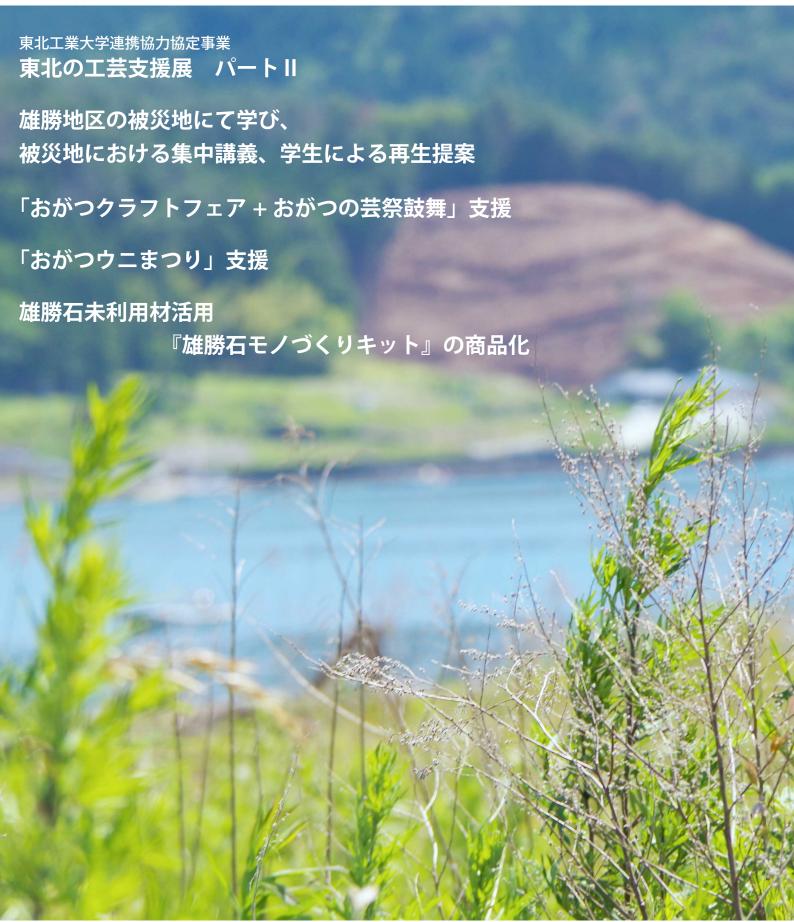


雄勝いしのわプロジェクト

~ 雄勝石産業を核とした場づくり、モノづくり、人づくり~



東北工業大学連携協力協定事業

東北の工芸支援展 パートⅡ



本学の連携・協力協定事業「東日本大震災-東北の工芸支援展パート II - 」を 平成 26年11月に続き4月28日(火)~5月6日(水)に熊本県伝統工芸館で開催しました。

本学と熊本県伝統工芸館は、互いに指導を受けた本学元教授秋岡芳 夫先生(熊本県出身の工業デザイナー)を通じて長年培った信頼関係 を基盤に、互いの施設や知的資源を活用しながら工芸産地の活性化に 向けて連携・協力協定を締結しました。

展示会には東日本大震災の被災工芸産地を支援するため、石巻市の雄勝硯を主体に、宮城県の工芸産地の他、山形県、岩手県、秋田県からも出展をいただき、期間中約1800名の方にご来場いただきました。

「おがつクラフトフェア + おがつの芸祭鼓舞」支援



おがつのイベント『おがつクラフトフェア』と『おがつの芸祭鼓舞』 (おがつ復興市実行委員会・おがつの芸祭鼓舞実行委員会主催)が、 今年度は5月24日(日)、おがつ店こ屋街で同時開催され、本学科 の学生と教職員が運営サポートをしました。

会場では「雄勝石を自由に加工してつくるアクセサリー」や「雄勝石モノづくりキッド体験コーナー」、書道や石割体験コーナー、硯や石皿の販売コーナー、工芸品や手づくり品各種地場産品や地元海産物の販売ブース等がありました。

老若男女を問わず多くの来場者があり、「雄勝法印神楽保存会」、「伊達の黒船太鼓保存会」などのステージにより雄大な演舞と力強い音色が響く華やかなイベント会場では、再会を懐かしむ声なども聞かれていました。

イベント支援を通して学生は、雄勝の魅力に触れ、人々の温かさや 強さを感じながらも、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた地域の復 興状況を目の当たりにし、何ができるのだろうかと考えさせられたよ うです。

おがつウニまつり支援



石巻市雄勝町の恒例イベント『おがつウニまつり』(おがつ復興市 実行委員会・宮城県漁業協同組合雄勝町東部支所主催)が今年も6月 28日(日)に行われました。

本学では震災後より開催を支援しており、今年も安全安心生活デザイン学科をはじめ、硬式野球部やボランティア部の学生と教職員約50名が運営に参加しました。あいにくの雨模様でしたが、ウニを詰めたり運んだり、お客様の列整理をしながら様々な交流が生まれました。お客様や雄勝の方たちに喜んでいただいて、参加した学生たちにとっても有意義な活動となりました。

今後も地域と連携し、産業振興や地域振興等の実践的活動の支援を 継続的に行っていきます。

雄勝地区の被災地にて学び、 被災地における集中講義、学生による再生提案







学生からの再生を目標とした提案のプレゼンテーション

甚大な被害を受けた雄勝地区の現状を学び、今後の雄勝の再生の途を学生の目線で提案を行うことを主目的とし、現地での3回の集中講義形式で実施しました。授業科目は、安全安心生活デザイン学科の4年生を対象とした「生活デザイン総合科目」で、18名が受講し、講師は徳水博志先生です。雄勝在住の徳水先生は、震災当時に雄勝小学校の教員をされておりましたが、残念ながら自宅も津波で流出しました。現在は、石巻市内に仮住まいされ、雄勝再生のための雄勝環境教育センター代表として実践的活動を地区住民の方々と協働で取り組んでおります。徳水先生の講義内容は、「地元の方が撮影した津波映像を通し、雄勝地区内の津波被害概況」、「被災した子供たちの心のケアのための専門カウンセラーと共同で取り組んだ実践的教育(映像化されたものは NHK でも放映されました)」、「雄勝中心エリアの整備概要と防潮堤の嵩上げ事業に対する不安内容に関して」、波板地区のかつて波板石を採掘していた場所の視察と解説」等、多岐にわたる内容でした。

受講生は、徳水先生から解説された内容を基に、雄勝の将来像を描きつつ、どのような再生の途を相応しいのかを提案することになりました。学生からは「海の見える防潮堤計画」、「観光資源になる防潮堤計画」、「地域資源を活かした商店街」、「一日いても退屈しない、雄勝の自然を感じることができる町」、「高台に安全に避難できる仕組みのある町」など提案があり、その提案を基に徳水先生とのやり取りを行うという、実に密度の濃い授業となりました。徳水先生からは「こうして実際の現地、具体的な姿を見ることで、より現実的な将来像を描くことの大切さを知っていただいたことに対して感謝したい」とのメッセージを頂きました。授業に参画した学生にとっても雄勝の再生を心の片隅に入れ、社会での実践に役立ててほしいと授業窓口担当の立場から願っております。

雄勝石未利用材活用『雄勝石モノづくりキット』の商品化





サイエンスディ石巻にてモノづくり体験の様子

本プロジェクトではこれまで、雄勝石の未利用材を使用した新たな商品を提案するべく、ワークショップやイベント時に様々な方の御意見を聞き、商品化を進めてきました。

「未利用材を使用した商品化」とは、硯やクラフト等の商品を 製作する際に出る端材を利用し、新たな商品展開の可能性を探る 取り組みです。

いよいよ 2015 年度は、学生らがキット商品作りを支援し、雄勝石を使って思い思いのオブジェや鉢植え、小物入れなどを作成してもらう『雄勝石手づくりキット』を販売することとなりました。昨年度、雄勝石の商品化に向けて、モノづくりを体験し、多くの貴重な御意見をいただきました、仮設住宅居住者の皆様、「学都仙台・宮城サイエンスデイ in 石巻」や「東北工業大学工大祭」の参加者の皆様、東北工業大学安全安心生活デザイン学科学生など様々な方、本当にありがとうございました。



卸町仮設住宅にてモノづくりワークショップの様子

『雄勝石モノづくりキット』は、4月から常に石巻市雄勝町のおがつ店こ屋街の雄勝硯生産販売協同組合の店舗で販売していますが、様々な各地イベントでも販売しています。

5月には熊本県伝統工芸館で開催された「東日本大震災-東北の工芸支援展パートII-」、6月には福島県奥会津三島町で開催された「ふるさと会津工人まつり」、8月には黒川郡大和町のまほろばホールで開催された「まほろば夏まつり」にも出店し、8月末までに約30個(店舗販売も含む)を販売しました。



商品の詳細



また、雄勝町などでキットを購入し、モノづくりを体験するイベントも多く開催しています。7月12日(日)には、トヨタ自動車東日本株式会社の新人研修で「雄勝硯の見学と体験実習」を企画し24名の方が体験されました。

また8月22日(土)は、「石巻に恋しちゃった―第7回からやぶり―」の『雄勝石でミニ鉢植えを作ってみよう!』で10名の方が鉢植えや小物入れを楽しく作りました。

9月12日(土)、石巻市の小学生を対象とする「ふるさと子どもカレッジ」では18名の小学生が体験しました。

今後も多くの方たちに、雄勝町や雄勝石の魅力を知っていただき、現 地に足を運んでいただきたいと願っています。





①、②、③、ふるさと子どもカレッジ」体験の様子

2015 年活動記録

3/26 雄勝現地調査 未利用材づくり

3/30 みやぎ地場産品開発流通研究会打ち合わせ

熊本伝統工芸館展示会に向けて

4/7 雄勝プロジェクト打ち合わせ

4/11 石巻・長面浦「はまなすカフェ」報告会に参加

4/16 河北新報掲載 (雄勝硯復活へ熊本で PR)

4/16 雄勝石手づくりキッド商品作成準備

4/19 河北新報掲載(雄勝石に浮かぶ 失われた風景)

4/19 雄勝まちづくり協会

「上映会/シンポジウム 子どもを育む地域づくりを考える」に参加

4/22 雄勝石手づくりキッド商品作成

4/28 ~ 5/6 熊本県伝統工芸館展示会

5/6 熊本県伝統工芸館展示会にて 雄勝石手づくりキッド実演

5/12 雄勝いしのわプロジェクト打ち合わせ

5/13 雄勝石手づくりキッド商品作成

5/20 雄勝石手づくりキッド商品作成

5/22 河北新報掲載(雄勝石工芸 継承に新風)

5/24 「おがつクラフトフェア+おがつの芸祭鼓舞」運営支援

雄勝石手づくりキッド実演

6/11 雄勝地区の被災地にて学び、

参画学生による再生提案を行う、現場における集中講義

6/13-14 第 29 回ふるさと会津工人まつりにて雄勝石モノづくりキット販売

6/19 みやぎ地場産品開発流通研究会

6/21 平成 27 年度 第1回雄勝いしのわ実行委員会

6/27 おがつウニまつり準備/

オープンキャンパスにて雄勝石モノづくり体験実施

6/28 おがつウニまつり支援

7/3 河北新報掲載(格安ウニに行列 1550 箱すぐ完売 東北工大生らお手伝い)

7/4 河北新報掲載 (漆黒の雄勝石で三者三様の作品 柴田で展示)

7/8 河北新報掲載(音楽の力 市民に元気 雄勝石で奏でる)

7/11 河北新報掲載 (書でリレー 被災地の絆)

7/12 トヨタ自動車東日本株式会社新人研修

「雄勝硯の見学と体験実習」にて雄勝石モノづくりキット 25 名体験

7/25 河北新報掲載(個性が光る作品展)

8/1 学生のプレゼンテーション 現地調査

8/2 黒川郡大和町で開催「まほろば夏まつり」にて

雄勝石モノづくりキット販売

8/8 河北新報掲載(雄勝で書道パフォーマンス)

8/10 雄勝いしのわプロジェクト打ち合わせ(工大)

8/10 河北新報掲載 (書の躍動感 被災地に力 石巻 雄勝でフェス)

8/16 河北新報掲載 (ラジオ石巻 蘇った雄勝硯すり唄)

8/16 河北新報掲載 (硯の町に書で復興エール)

8/18 河北新報掲載 (プレート雄勝に戻った)

8/22 河北新報掲載 (伝統工芸品産地へ海外専門家招く 経産省がツアー)

8/22 「石巻に恋しちゃった」の『雄勝石でミニ鉢植えを作ってみよう!』

にて雄勝石モノづくりキット 10 名体験

8/22 「My SUZURI 運動-硯の制作体験」

を雄勝硯生産販売協同組合が武藤順九氏と協力開催

8/24 河北新報掲載 (できるかなマイ雄勝硯)

8/27 平成 27 年度 第 2 回雄勝いしのわ実行委員会

8/27 河北新報掲載(雄勝再生へ運動推進 オンリーワンの硯を作ろう)

9/8 雄勝現地調査 ヒアリング調査

9/9 河北新報掲載(キャンパスは雄勝産天然スレート)

9/12 雄勝現地調査 ヒアリング調査 齋絢子氏らと雄勝石活用の打ち合わせ



My SUZURI 運動 - 硯の制作体験

石巻市雄勝町の雄勝硯生産販売協同組合は、みやぎ絆大使でローマ在住の彫刻家の武藤順九氏(仙台市出身)と協力し、My SUZURI 運動を推進しています。従来の形にこだわらず、自由な発想でオンリーワンの硯を作ってもらうことで、雄勝硯への関心、魅力を再認識してもらい、子どもたちから大人までが硯作りを気軽に楽しめる取り組みを強化しています。

8月22日は、武藤氏の母校である仙台市南材木小学校の小学生や先生、保護者の方30名ほどが硯作り体験をし、武藤氏や組合の方の指導のもと、楽しく取り組んでいました。参加者は、厚さ数センチの手のひら大の石を素材に、石の形を生かし、富士山やフクロウなどをイメージして彫刻刀で彫る作業に精を出しました。



My SUZURI 制作体験の様

編集後記

本プロジェクトも最終年度を迎え、上半期は昨年に引き続き熊本県伝統工芸館での「東日本大震災―東北の工芸支援展パートⅡー」ほか、様々な催事に向け活動してままいりました。また、昨年度からワークショップ活動などで様々な方よりご意見いただき開発してまいりました「雄勝石未利用材活用『雄勝石モノづくりキット』が商品化されました。本プロジェクト終年度ではありますが、下半期もプロジェクトメンバ――同一丸となって「場づくり」「モノづくり」「人づくり」に取り組みたいと思います。

(菅井 悠紀)

雄勝いしのわプロジェクト

~雄勝石産業を核とした場づくり、モノづくり、人づくり~

発行元:東北工業大学

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 〒 982-8588 宮城県仙台市太白区二ツ沢 6 番 TEL: 022-304-5592 FAX: 022-304-5591

MAIL: info@ogatsu-ishinowa.jp URL: http://ogatsu-ishinowa.jp/

*本プロジェクトは「雄勝石産業の復活を核とした生産とくらしの再生」をテーマに三井物産環境基金2012年度下半期活動助成(復興助成)の採択を受け活動を実施しています。